

イスタンブルでアカミミガメに出会う

野村 恵一

649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田1157 串本海中公園センター

Encounter with the red-eared slider in Istanbul

By Keiichi NOMURA

Kushimoto Marine Park Center, 1157, Arida Kushimoto, Wakayama, 649-3514, Japan

ロンドンで用事があり、イスタンブル経由の関空ーロンドン便を利用したが、帰りのイスタンブル便が大幅に遅れたためトランジットに失敗、丸一日イスタンブル待機の予期せぬはめになった。時間はあるしせっかくの機会と思い、古都観光ツアーに参加したところ、遊覧先のYildiz Park でミシシッピアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* (以後単にアカミミガメと呼ぶ)に出合った。

Yildiz Parkはイスタンブル市のヨーロッパ側にあるベシクタシュ地区のボスポラス海峡を望む高台に位置し、かつてのオスマントルコ皇帝の庭園を利用したトルコ最大級の公園である。添乗員からはこのカフェを利用するように言われて車を降ろされたが、営業には協力せずに50m四方ほどある大きな池の回りを散策して暇をつぶすことにした。なにげに水面を眺めていると、たくさんの小魚とともにポツポツとカメが浮いているのが目についた。ここのカメかと思えばに寄ってみると、なんとそれは日本でもよく目にするアカミミガメであった(図1左)。その後、池の周りをざっと探索してみたが、合計10個体ほど観察されたカメすべてがアカミミガメであった。

ウィキペディアでアカミミガメを検索してみると、分布は原産地のアメリカ大陸からハワイ、日本、大韓民国、中華人民共和国、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、インド、イタリア、オランダ、スペイン、ポルトガル、イスラエル、エジプト、南アフリカ共和国、キューバに及び、分布範囲は世界中にまたがっているものの、これまでイスラエルを除く西アジア地域では観察事例が抜けていたようである。

アカミミガメの子供は緑色をしていて確かにかわいい。世界中の誰がみてもその気持ちは同じであろう。その戦略が奏効し、今やコスモポリタンとなって彼らは繁栄している。しかしながら、地域特有の風物や生物相に接することができるのが旅の醍醐味であるだけに、イスタンブルまで来て本種には出合いたくなかった。このげんなりした気持ちを癒してくれたのが、すぐそばまで寄ってきてくれた初見のハイイロガラスだ(図1右)。ツートンの体色といい、カアーとは鳴かない鳴き声といい、日本のものとはまるで違う。これこそ、正しい旅の出会いである。



図1. ミシシッピアカミミガメ(左), ハイイロガラス(右), Yildiz Park, イスタンブル, 2013年9月27日撮影。